

平成29年度第7回社会教育委員の会議

平成30年1月24日(水)

午前9時30分開会

開催日時	平成30年1月24日	開会 9時30分 閉会 11時30分	
場 所	前原暫定集会施設A会議室		
出席委員	議 長 小山田佳代 副 議 長 原田 隆司 委 員 首藤 由憲 委 員 城 瑞枝 委 員 長坂 寛	委 員 柴田彩千子 委 員 福井 高雄	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 内田 雄介 図書館長 菊池 幸子 公民館長 西村 直邦		
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主事 小佐野七香		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 生涯学習支援センター機能（ホームページ関連）について (3) 平成30年度の視察研修について (4) その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 平成29年度都市社連協第5ブロック研修会報告 (2) 第48回関東甲信越静社会教育研究大会報告 (3) 平成29年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会 (4) その他 <ul style="list-style-type: none"> ①平成29年度成人の日記念行事の開催報告について ②図書館の開館について ③議会報告について

小山田議長 皆さん、おはようございます。時間ですので始めたいと思います。今年に入って初めての委員会で、成人式でお会いした方もいらっしゃるんですが、委員会としては初めてですので、また今年もよろしく願いいたします。

それでは、きょうも議題等いろいろございますので、まず配付資料の説明から、事務局のほうでお願いしてよろしいですか。

小堀生涯学習係長 では、本日お配りした資料を確認させていただきます。ちょっと数が多いですけれども。

まず、きょうの次第、第5回の会議録。その次に、活動内容PR用紙。裏面に記入例があります。その次に、右肩に「資料（HP）」と書いてある資料と、その次、社会教育関係団体名簿（平成27年度から29年度）青少年健全育成団体というA4の一覧表。その次に、右肩に「資料」と書いてある生涯学習情報コーナーというものがあります。次に表面が小金井市社会教育委員会管外視察研修研修先一覧、裏面に平成30年度視察研修先参考資料。次に資料ナンバーでいう4番から6番をまとめたものがついております。ここから先が、委員の方だけですけれども、A4の封筒にまとめて入っております。社協情報No. 77。次に、社協連会報。「とうきょうの地域教育」No. 129、130。図書館だより第42号、43号。

公民館474、475、476、477。花みずき。東京の文化財、東京文化財ウィーク2017。こちら福井委員からで、「地域を結ぶ公民館活動」。

以上です。

小山田議長 ありがとうございます。もし何か足りないものがありましたら。では会議にいきたいと思います。

それでは、きょうの議題になりますが、まず、「会議録の承認について」ということで、最初の資料になります。第5回社会教育委員の会議ということで、9月のものですが、ちょっとお目通しをいただきまして、何かもしありましたらご自由に。

原田副議長 これは既にデータで送られているものですね。何かあれば、もう既にご連絡をいただいているみたいですよ。

小山田議長 もし何か修正した方がいらっしゃれば、修正があるかどうかを確認いただきまして。こちらのほうはいかがでしょうか。こちらで会議録のほうは、承認していただくということでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

小山田議長 じゃあ、こちらのほうは承認していただいたということで、よろしく願いいたします。

それでは、きょうの議題が、「生涯学習支援センター機能（ホームページ関連）について」ということと、あとは、「平成30年度の視察研修について」というのがございます。

まず、生涯学習支援センター機能（ホームページ関連）についてということで、これも昨年からもお話が挙がっていますが、きょうはまたお話を進めたいと思います。

では、小堀さん、事務局のほうから、キーというか、資料を通して説明をお願いいたします。

小堀生涯学習係長 そうしましたら、4枚、資料をお配りしている中で、活動内容PR用紙と、資料（HP）と、社会教育関係団体名簿、生涯学習情報コーナー、こちらの4枚をちょっと見ていただきたいと思います。前期からの委員の方は、見たことある用紙があるかとは思いますが、今期初めての方もいらっしゃいますので、改めて説明させていただきます。

狭山市の視察研修に行きまして、生涯学習に特化したホームページ等を見させていただいたところなんですけれども、小金井市の現状として、生涯学習に特化したホームページをつくるということは今の段階では難しいんじゃないかということで、生涯学習情報をもう少し簡単に見られるようなつくりができないかということ、皆さんにおっしゃっていただきました。

今回お配りした中に、以前の資料を使ってしまったので一番上に阿波おどりの絵がついている資料なんですけれども、これが現状の市のホームページで、①と書いてある阿波おどりが出ているこちらが、市のホームページの一番最初の画面になります。こちらの中の左から2番目、「子育て・教育」というところをクリックしていただくと、次に、②ということで書いてある「子育て・教育」のペー

ジに移ります。そこにはもうちょっとたくさんの項目があるんですけども、その中の1つ、真ん中の左に「生涯学習」と書いてあるところがあるんですが、生涯学習課の事業等はこちらに入っております。

事業案内とか資料とか講座とかそういったところに分かれているいろいろなものが入ってるんですけども、この段階で今、ホームページから1回クリックしている状況なんですけど、ここの「ITサポートセンターを開催しています」というところの下あたりに「生涯学習情報コーナー」、名称は今のところ仮称なんですけどもそういった案内をつくりまして、そちらを押して、生涯学習の情報がそこから見られるようにということを目指して、おっしゃっていただいています。

右上に「資料」と書いたA4の「生涯学習情報コーナー」という資料なんですけども、先ほど言った、ITサポートセンターの下あたりに「生涯学習情報コーナー」というものをつくったときに、そこを押したときに、次に、左側の「生涯学習とは」、「各種事業（講座）」、「関係団体」、「関係施設」という形で大きく出るようにして、それをクリックすると、今度、左から2番目の列の、枠で囲んだところに飛んでいくという、その下に事業等が入っていくということをイメージしています。その先、一番右端へ矢印があるものは、全てではないですけども、ホームページへリンクしているものとか、あと、リストとかがあるものはそちらを選べるようにという形になっております。

あわせて、社会教育関係団体についてですが、現状では、先ほど阿波おどりのところが出ている資料の一番下に「社会教育関係団体一覧」というものを書いてありますが、「子育て・教育」、「生涯学習」、「資料」、「生涯学習係」まで押して「社会教育関係団体一覧」というのが出るようになっていて、そのPDFをクリックすると、資料でお配りしているA4横の社会教育関係団体名簿というものが分野ごとに出るようになっております。現状、このような形をとっております。

また、PR用紙については、社会教育関係団体が3年に1回登録の更新をしていただいているんですけども、今登録していただいている方たちは平成27年から29年の登録となっております。平成30年3月に更新をしていただきます。そのときに、なかなか活動につ

いて伝わりづらい部分もあるんじゃないかということで、社会教育関係団体活動内容PR用紙というものを記入していただいて、これは任意なので、どの団体も全部につくっていただかなきゃいけないというものではないんですけれども、今後の予定としては、集まったものを窓口で備えて紙で見えていただくものと、あと、いただいたデータとか紙ベースをPDFにして、先ほど見ていただいたような社会教育関係団体のリストからPR用紙の部分をクリックすると、その案内が見られるようにということを考えています。

時期とすれば、このPR用紙は、社会教育関係団体の申請をしていただくタイミングでできれば一緒にお配りしたいと思っております。今回、2月の半ば過ぎに申請書をお配りする予定になっておりますので、できれば、きょうの会議で話し合いいただいて、形式が確定できたらいいとは思っております。

以上です。

小山田議長

ありがとうございました。

重複する部分もあるかと思うんですけれども、ちょっと補足しながら。

生涯学習支援センター機能を何とかしたいというのがまずありまして、第3次の計画とかにも書いてありますので、それで何ができるかというところで、昨年度からホームページに情報を集約したものをまずできればいいんじゃないかということで、狭山のほうに見学に行ったりしています。予算的なものとかそういうのもありますので、とりあえず、今できるところからやりましょうということを進んでいました。

それで、生涯学習課のほうでやれる範囲でということで、とにかく何か情報コーナーを新たに設けようということで、昨年度と、先日、小委員会の部会が開かれまして、小委員会のほうでもある程度、内容を固めてきました。その生涯学習情報コーナーの中に新たにということで、先ほど小堀さんから説明がありました「生涯学習情報コーナー」という、「資料」と書いてあるこれが、生涯学習課のほうで頑張ってください、クリックすると出てくるように、4月の中ごろを目標に準備をしていこうということです。

これが全体のコンテンツと内容なんですが、まずこれを見ていただいて、これは小委員会でもちょっと検討してこういった形で今出

ているんですが、さらに委員会でもご審議いただいて、何かここはこうしたほうがいいんじゃないかというのがまず1つあります。全体的な内容がこれが出るということで、ただ、生涯学習課の方がやってくれる範囲ということなので、あまりご無理も言えないかもしれないということがあります。将来的には、これがオープンしてからもっと充実したほうがいいっていろいろな意見ができれば、さらにいろんなことができるかと思うんですが、まずは基本的なものができたということ、こちらのほうをご意見いただきたいということ。

それから、この中で、「関係団体」というコーナーがありまして、「社会教育関係団体」のリストを、PRをもうちょっとできるようなものをつけたらいいんじゃないかということで、ちょうどこの春に社会教育関係団体の申請の更新の時期ということで便りを出せるということですので、そのときに、ホームページに出していただくようなPR用紙をつけて、それに書いていただいたら、その新しい情報コーナーのところにPR用紙をPDFにしてそのまま、その団体のところに、わかるようにおつけしようというような企画ということで、お話があります。

その実際のPR用紙というのがこちらにありますけれども、活動内容PR用紙という、これもこの間、小委員会で、幾つかいろんなパターンがあったんですけども、ひとまず社会教育関係団体としてはこういったようなPR用紙がよいのではないかということで、団体名と活動内容と、あと活動の紹介で、活動場所、活動日時、会員数、会費、ホームページがあれば書いていただいて、これがこのまま掲載されるということです。一応写真のほうも、もし掲載可能な写真があれば、お寄せいただければそれも掲載できるということです。

きょうは、先ほどの全体の情報コーナーのご意見と、このPR用紙を2月の中旬に配布したいということなのできょう確定させていただけたらということで、その用紙についてご意見がありましたらいただけたらということです。

実は、活動分野とかそういうのもあって、最初、入れたらいいかと言ってたんですけども、この用紙にはそれは入れないで、お申し込みいただくときに申請用紙のほうには分類を書くようになっているので、青少年健全育成だったり女性問題関係団体ということ

で、掲載するときにそれを分けてリストとしてここに順番に掲載したらよいのではないかという意見が小委員会のほうでは出ていたんですが、また皆様のご意見を聞いていきたいと思えます。

ということで、全体のコンテンツのこととPR用紙について、何かご意見があればいただきたいと思えます。

(事務局 追加資料配付)

小山田議長 今、小堀さんが27年度から29年度の社会教育関係団体の登録についてという、緑の用紙を配っていただいているわけですが。

小堀生涯学習係長 ちょっと説明をさせていただきます

小山田議長 はい。じゃあ、小堀さん、お願いします。

小堀生涯学習係長 こちら、今生きている平成27年度から29年度の登録をお願いするときに使っていた用紙です。おおむね、30年度につきましても用紙についての変更はない予定ですが、こういった用紙を今現在登録中の社会教育関係団体にはお配りして、30年度から32年度までということで登録の更新をしていただく。あとは、市報等にも載せますので、新規の団体等がございましたら、新規の団体等にも窓口等でお配りする予定です。こちらの社会教育関係団体は、一番後ろにある要綱をもとに登録しております。

以上です。

小山田議長 ありがとうございます。

申請団体の方は、この申請用紙を書いて、さらにホームページでPR用紙を出したい方はこっちも書いていただくということになります。

じゃあ、生涯学習情報コーナーのこの資料の順番に見ていただければと思うんですが、まず、左のほうの「生涯学習とは」、「各種事業（講座）」、「関係団体」、「関係施設」というのを大きい項目として据えていまして、それぞれをクリックすると、「生涯学習とは」は「生涯学習概要」、「推進計画」というのが出てくると。で、「推進計画」は、「第3次生涯学習推進計画」ということで、PDFに

飛ぶようにすると。

で、続いての、「各種事業（講座）」というのがありまして、その中で、「子どもをテーマとした事業・講座」、「大人がおもな対象の事業・講座」、「イベント事業」、「公民館事業」、「図書館事業」、「スポーツ事業」、「清里山荘事業」という大きい項目がありまして、「子どもをテーマとした事業・講座」のところをクリックすると、その下に、「放課後子ども教室」、「心身障害児地域活動事業」、「校庭開放事業」、「家庭教育学級」、「思春期子育て講座」、「青少年のための科学の祭典」というのが出てくるということです。

次が「大人がおもな対象の事業・講座」ということで、ここをクリックすると、「まなびあい出前講座」、「シニア世代のための地域活動講座」、「こがねい市民講師登録・紹介制度」、「小金井コミュニティ講座」というところで、それぞれが講座リストですとか市民講師リスト、外部サイトへというふうな形で飛べるようにリンクを貼っていただくと。

次が「イベント事業」で、こちらは「成人の日記念行事」という、今はこれだけなんですけど、また何かあれば増える場合も。

続いて「公民館事業」は、もう公民館のホームページがそれぞれありますので、飛んで、リンクを貼っていただく。「図書館事業」も、図書館のホームページのほうにリンクを貼っていただくということ。「スポーツ事業」は、スポーツのホームページへリンクを貼っていただき、「清里山荘事業」も清里山荘のホームページにリンクを貼っていただく。

この事業が、小委員会でも、もっといろいろ出したほうがいいんじゃないかという意見もあったんですが、とりあえず生涯学習課のほうで主催されている事業を主に掲載するというので今回はいいのではないかというのが、小委員会の意見ではありました。

「関係団体」は、「社会教育関係団体」ということで、提出すると、申請してくださった団体を分野に分けてそれぞれにお名前とリストを出し、その活動PR用紙に飛べるように出していただくというところが「関係団体」。

あと、「関係施設」につきましては、公民館、図書館、スポーツ施設、文化財センター、清里山荘と、各種事業とちょっとかぶるところはあるんですが、一応またホームページにそれぞれ飛べるようにということで、スポーツ施設は、総合体育館、栗山公園健康運動

センター、上水公園運動施設、小金井市テニスコート場ということで、一応こういう構造になっております。

何かご意見があれば。これにつきましては、4月中旬ごろにオープンするというので、次の委員会でもまだご意見をいただければ、加えたり削ったり、ちょっとジャンルを変えたりということは可能ということなんで、きょうは、もうちょっとここを入れたほうがいいんじゃないかとか、このタイトルは変えたほうがいいんじゃないかとか、そういうご意見があればいただければと思います。

いかがですか。

原田副議長

ちょっと、使う立場から補足をしますと、なぜこの生涯学習情報コーナーをつくるかという、市民の中で、何かやりたいんだけどどこへ行ったらいいかわからない、何をやってるかわからない、どういう場所があるのか、どういう団体があるのかという疑問に答えようということですね。それで、小堀さんが一生懸命つくっていただいたその狙いは、とにかく、あまり何回も何回も押していくと途中でくたびれちゃうんじゃないかと、なるべく早く行き着くようにしたい。そうはいっても、随分何回も押さないといけない。これが最小限に絞った構造になってるんですね。

実際、私がじゃあこれを使おうとしたときに、さっきご説明あったように、まず、小金井市のホームページ、一番トップページに、1番、行きます。で、1回。「子育て・教育」を押して2回。で、その中に「生涯学習情報コーナー」というものが新設されると。で、3回押しますね。そうすると、この縦欄のものにたどり着いて、3回目です。この左端です、「生涯学習とは」、「各種事業（講座）」、「関係団体」、「関係施設」、この4つが出てくるんですね。これを押すと、その奥へ入っていくということで、生涯学習情報コーナーのところに行くと、その人の目的によって、何か講座を受けたいわ、何かイベントに参加したいわという人は「各種事業」と。それから、どんな団体があるかしらという人は「関係団体」のところに行くと。それから、どんな施設があるのかしらという人は「関係施設」ということで、今議長のお話しがあったように、多少情報がダブってても構わないので、それぞれの興味関心で行けるようにしてはどうかという設定になってますね。

で、今までにない情報は、今までは「社会教育関係団体」で、団

体のこの横長のように、名前とか何とか、こういう若干お役所的な表が出てくるだけで、中身がよくわかんないと言う人に応えようということで、団体自身がPRしたいというものが直接出てくるようにしようということで、小堀さん、これもこの表から行くことになるんですか、PR用紙は、一番右の。

小堀生涯学習係長 そうですね。今、一番右側に「HP等」と書いてあるところがあると思うんですけども、そこに追加するか、もう1列つなぐかなんですが、列の端っこのほうにあるところをクリックするというふうに、リストの中からクリックしてという形で。

原田副議長 団体が、この表が分野別に出てくるんですね。例えば、だから、何かボランティアやりたいわといったら、ボランティアのところをざっと見て行って、そこに「PR用紙があります」という印があれば、そこを押せばその団体のPR用紙が出てくると、こういう仕掛けだと思います。

かなり利用者の側に立った設計になっているかなという気がします。皆様、いかがでしょうか。

小山田議長 あと、PR用紙を小委員会で検討してる時も、それぞれの個人情報について、団体にすぐ連絡できるようにほんとうはあればいいんじゃないかという意見も、それぞれの団体の連絡先までという意見もあったんですが、個人情報の問題で、それを掲載するにはまたいろんな会議にかけたりしなくてはいけないということで、現状としてすぐ出せるとしたら、個人情報の連絡先とかはここには掲載せず、ただ、生涯学習課のほうでリストとしてはお持ちなので、実際に連絡先を聞きたいという場合は、生涯学習課のほうに尋ねていただくというようなシステムでやるっていう話にはなっています。ただ、ホームページがあるところは出すので、そしたら、ホームページに飛んでもらうと、多分そこには連絡先とかも書いているかなと思うんですけども。一応ホームページは掲載してもいいということで、登録申請紙のほうには、オーケーの場合には丸というふうに入れるということになっているので、そういったところでは、ホームページは、公開オーケーなところは出せるかなという形になっています。

でまあ、何かもうちょっと細かい、いろいろ出したらいいいんじゃないかといった意見もあったんですが、とりあえずはこのぐらいの項目でよろしいかなというのが小委員会でまとまった意見なんですけれども。このPR用紙のほうは、きょう絶対にこれは固めたいということで、2月の今度の委員会前にもう各団体等に、そうしたいということと言って。両方どちらでもいいんですが、こちらはまだ次の委員会でも意見を聞けるということなんです、ご意見がありましたらいただきたいです。

はい、福井さん。

福井委員

意見なんですけれども、社会教育関係団体じゃなくて、全体的に小金井市で活動している市民活動団体リストっていうので、コミュニティ文化課及び社協のほうで協力している紙媒体のリストがあるんですが、一般活動をしている約300団体が網羅されている紙媒体の書類があるということなんですけれども、今回こちらのほうは、あくまでも社会教育関係団体のみの団体で登録のPR用紙ということで、小委員会で検討されてる途中の用紙だということで今理解はしております。裏ページにある注意事項も加味するんですけれども。

もう1つ、このPR用紙は、そういう個人情報云々ということで項目と紹介をここで添えているんですけれども、紙媒体の団体リストは、全て個人情報の住所、氏名、電話番号等、それも掲載するかどうかっていうのは、一般の団体の意思表示で掲載する・しないというところも確認してつくられているんですが、あくまでもこの生涯学習情報コーナーのアクセスルートで検索して行って、ここまでのPR用紙にたどり着いたとして、例えば、そことちょっと交渉したりとか確認したいという場合にたどりつけない。一切、PRだけで終わって。個人としては、意図する団体のアクセスルートとしては、ホームページというのもあるんですけれども、我々一般市民が利用する場合はeメールっていうものを使うんじゃないかと思えますから、意見として、この活動紹介を知らせる中の「ホームページ」の下に、eメールはアクセスするかどうかということも小委員会で検討していただければということで、意見を申したいと思います。

以上です。

原田副議長 小委員会でそのご意見が出て、もちろん、庁内の手続を踏めばそこまでやれないことはないんですが、それをやっていると来年になっちゃうということで、私は、4月にスタートさせるほうを重点にしたほうがいいんじゃないかという意見です。eメールも個人情報なんで、審議しないと出せない。そのかわり、このPR用紙を見て興味を持った人が問い合わせをしたら、必ず生涯学習課で丁寧に対応してくださるとい、そういう前提でやってみたらどうかなと思うんですが、いかがでしょうか。

小山田議長 ほかの皆さんはいかがでしょうか。
柴田委員。

柴田委員 いち早く市民の方に学習の情報を届けることが最大目的でしたので、4月からこのシステムを発足させるということで、原田委員がおっしゃったように、まずはやってみるといところに重点を置いて進めていく必要があるのではないかと思います。

小山田議長 ありがとうございます。
首藤委員はいかがですか。

首藤委員 そうですね、こうやって整理されていくことがすごく大事だと思いますし、そこから先、どこまで入るのかというのは、やっていく中で考えればいいかなというふうに思いますから、とりあえず今の段階で整理されて、4月に立ち上げるということであれば、やってみて、何か問題があればもう1回という手順でよろしいかと思います。

小山田議長 ありがとうございます。
城委員はいかがですか。

城委員 私も、せっかく4月から載せられるように進んでいるので、できる範囲内で4月に載せられるように持っていったほうがいいんじゃないかなと。細かいことは、やっていながらやっていくしかないんじゃないかなと思います。

小山田議長

よろしいですか。

ということで、eメールはまたちょっと次の段階ということで、とりあえずホームページまでの情報でお出しして、その先に、追記でやれるのであればまたちょっと進めるということで。

原田副議長

福井さんのご意見は、すごく僕は共感できるんです。実際、生涯学習情報コーナーをパソコンを使って見る人というのは、電話したりなんかするよりは、おっしゃるようにeメールですぐ聞きたいという人は多いと思うんで、そうなるのが絶対理想で、そのほうが反応がいいと思うんですよね。パソコンを使っている人が、何だ、行けないのかよって言って、僕もよくあるんだけど、どこにもないとそこでがっかりしてやめちゃうということもあるよね。したがって、だから、なるべく早くそのテーマに、今後の改良もやっていったらいいなと思います。

福井委員

ありがとうございます。

小山田議長

今、ほんと、eメールでも結構ブロックとかされていて、個人だと、逆に、送っても届かなかったり、ブロックされて戻って来たり、迷惑メールに入れられてしまったりとかっていうのもやっぱり、知らない人からのアクセス拒否というのをかなり皆さんセキュリティ管理をしてらっしゃるといふのがあるかと思っておりますので。とりあえず、生涯学習情報課の皆様はお問い合わせが大変になるかというのが、ちょっと申しわけないような気はいたしますけれども、とりあえずこのPR用紙でやらせていただいて、どのぐらい問い合わせ等があるかというのを、来年になりますけれども、始めてからまた委員会とかでご報告いただきます。

じゃあ、PR用紙はこれでということで、2月の中旬にお配りいただくということにしたいと思います。ありがとうございます。

あと、全体のいろいろなコンテンツがあつてという、タイトルとかもこれでいいかみたいなこともあるんですけども。すぐにとってもなかなかご意見も出しづらいかもしれないので、これは次回にもご意見はいただける、時間的には大丈夫ということですので、ちょっと見ていただいたり、市のホームページも見ていただいたり、

これでよいかというのをちょっとまた皆さん、ご検討いただければと思うんですけれども。方向性としてはこういうようなことよろしいでしょうか、皆さん。細かいことはまたあれですけれども。大きいコンテンツがもうちょっと、何かご意見があれば。

大丈夫ですか。

原田副議長 質問ですけれども、基本的には、PR用紙以外は、今あるものを並べかえるわけですよ。そんな単純なものじゃないんだっけ。

小堀生涯学習係長 例えば、生涯学習情報コーナーの「子どもをテーマとした事業・講座」というところに「放課後子ども教室」というのが入っていますが、今は全部文章で入っています。放課後子ども教室はこういうものですよという形で。それを、ただの文章だけではなくて、クリックしてつながられるリスト等があるものについては、クリックしてその先で見てもらおうという形ですが、基本はあるものを応用していくということです。

ただ、今ないものでももし載せることが可能なもの、「シニア世代のための地域活動講座」とかっていうのは、年度が変わると始まる予定なので、そういったものも、そのチラシとかに行けるようにということプラスして行きたいとは思っていますが、他は既存のものを応用するというところが多いかと思います。

福井委員 4月以降「生涯学習情報コーナー」でまずここでクリックすれば小金井市のルートで出てくるということ自体を、一般市民に知らせるためには、やはり、こういうのを市報に載せていただいて、こういう情報コーナーが新設されたというところのPRが必要かと思えますから、具申しておきたいと思えます。

小山田議長 でき上がったら、一般市民の方にも市報ですとか、何かチラシみたいなものを公民館に置いたりとか、そういうことはしたいですね。

原田副議長 公民館のチラシって、結構みんな持っていきますよね。あそこに出しといたらいいかもね。

福井委員 利用するのは一般市民が当然、アクセスするための資料だと思

ますから、データというか、ぜひ、そういう新設した情報があるということの広報活動のお願いをしたいと思います。

小山田議長 来年度になると思いますが、でき上がったら、PRのほうもぜひ考えていくということで。

原田副議長 我々の周りの人に口コミというのも大事かも。今後こういうのが始まるよって。それも一緒にやりたい。

小山田議長 はい。じゃあ、皆様の口コミと、資料と、公的なものでPRを。とりあえず、じゃあまた次回、これももう一度議題に挙げたいと思いますので、実際、皆さん、いろいろ見ていただいて、何かもしご意見があれば、次回までに考えておいてください。お願いいたします。方向性としてはこの方向で進めていただくということで、ちょっと事務局のほうが大変だと思いますが、よろしくお願ひいたします。

それでは、続いて、3番目の議題に行きたいと思いますが、議題(3)「平成30年度の視察研修について」ということで、資料のほうで、先ほどご説明ありました、これまでの視察の研修先一覧と平成30年度の参考資料の両面になっているものになりますが、小堀さん、事務局からちょっとご説明をお願いいたします。

小堀生涯学習係長 「平成30年度の視察研修について」を議題にさせていただいたのは、マイクロバスを使つての研修になる場合には、3月ぐらいに大まかに行き先とか、高速道路を使うとかそういったところをあわせて申請をしないといけないというのがありまして、遠方を考えていることがあった場合は、なるべく早く確認しておきたいというところがありまして、議題にさせていただきました。

研修資料はA4裏表になっていて、1つは、これまで平成18年度から29年度まで行った先を羅列させていただいています。裏面のほうは、おととい開かれた第3回小委員会の際に福井委員からご助言いただいて、「とうきょうの地域教育」、こちらは126番から抜粋してまとめたものです。129、130をお配りしているんですが、こちらの中にもいろいろな活動をしている自治体の情報が出ておりまして、視察先の1つの例になるんじゃないかということ

をご助言いただいたので、後ろにつけています。

126のほうは今回抜粋したものを見ていただいて、129、130は本日お配りした中のものを見ていただいて、参考にさせていただければと思います。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。

30年度ということで、来年度なんですけど、先日行われました小委員会で話し合いをして。きょうの資料の「とうきょうの地域教育」の129号に結構、実は出ているんですが、今度、学校支援地域本部っていう、学校と地域と連携して学校を支えていこうという、そういった施策がありまして、さらに、地域学校協働活動の推進ということで、2ページ、3ページを見ていただくと、これまでの地域の教育支援活動の展開ということで、順番に、放課後子ども教室推進事業、学校支援ボランティア推進協議会事業があったりっていうので、今、実際、地域学校協働活動というところの推進というのを国も挙げ、東京都のほうも推進しているといったような状況であると。

平成29年の3月に社会教育法が改正されまして、この中に実際に、「社会教育法改正」というところを見ていただくと出てきますけれども、市町村の教育委員会は、地域住民等の関係者が学校と協働して行うものの機会を提供する事業を実施するに当たっては、地域住民の積極的な参加を得て、というようなことが書かれております。

そういった中で、実際、小金井は状況としてはどうなんだろうというところを振り返りまして、そうしますと、放課後子ども教室は充実した活動ができているんですが、やはり、地域学校協働活動の前段としての学校支援のための学校支援地域本部事業というのもモデルで何校かやったことはあるのですが、全校的にも広がってはいない。

さらに、その先にコミュニティスクールというものもありまして、コミュニティスクールは今、小金井市はゼロ校であるというようなことも踏まえて。あと、この近隣のほうも、視察も、実は平成26年度は国分寺市立第七小と杉並区の向陽中学。こちらもちょうどコミュニティスクールを見にいくっていう視察をしたんですが。平成

28年度は小平市の中学校と小学校で、こちらもコミュニティスクールの視察には行ったんですけども、視察に行っただけで終わってしまっていて、実際、近隣の市ではもう始まっているんですが、なかなかこの小金井のほうでは進んではいないということもございます。

で、もう一度、社会教育委員としてもこういったところの課題、まあホームページができて、その次、来年度の1つの課題として、いきなりコミュニティスクールというのも非常にハードルが高いんですが、まず学校支援というか、今、地域学校協働活動っていうものになってしまっていて、そういった方向の、地域と学校との連携ということで何か、社会教育のほうからも視察をしてその後何か提言できるようなものをつくって、来年度の活動としてはどうかということで、小委員会でご意見が出ました。

それで、事務局のほうにお願いして、「とうきょうの地域教育」の126号に地域学校協働活動をやっている事例が出ておりましたので、1つは、市内をヒアリングするというのもいいんじゃないかという意見も出まして、実際、学校がどういった状況かとか、ボランティアの状況等を先生にお話を伺ったりというのはあるかなという意見も出たんですが、せっかくなので、いろんな地域、外に出て、実際やっているところを見たいというご意見もありまして、こういった資料を出していただきましたということになっています。

まず、来年度視察がそういう方向でいいのかというのがございまして、きょう決定しなくてもいいということをお伺いしているので、その方向性がよいとしたら実際どういったところがあるかというのは、どういったところに視察に行きたいかというのはまだご意見は挙げていただけたら大丈夫ということではございます。

ということで、方向性として、来年度の視察がこういった方向でよいかということでまずちょっとご意見を伺いたいんですが、他にも何か別なことで方向性ですとかあればまたご意見をいただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

福井委員

先ほど事務局のほうから、マイクロバスを使う場合は3月中の申請ということをおっしゃったんですけども、例えばことしの秋ごろ研修に行くという場合でも、3月中に申請しておかないと行けないと

ということですか。

小堀生涯学習係長 そうですね。例えば今までの研修は、例年6月、5月前後に行っていると思うんですけども、研修をしたことを受けてまた話し合いをすることになっていくのであれば、あまり遅いとまた、その話し合いの機会が減ってしまうとかっていうのも多分あると思うんですね。昨年も、狭山に行ったときは、なるべく早く行って、その様子を見て話し合いをしたいという話があったと思うんです。なので、遠方、県外に出ることを想定しているとかっていうことがあると、高速道路代とかを予約時に入れておかないといけないので。もし、イメージとして都内のどこかの学校っていうところぐらいまでもし話がつけば、ある程度目安で設定してみたいなことはできると思うので、方向性だけでいいと思います。

ただ、時期はおおむねこれぐらいに行きたいということを決めていただくと、来年度の計画、流れの中でも動きやすいので、例えば、いつぐらいに、こういうことを目的に、このあたりを見たいというところを、2月の次の会議ぐらいまでに決まっていると、スムーズにいくと思います。

福井委員 ここに過去10年ぐらいの資料があるんですけども、大体、例年だと、秋に行ったケースを計画して6月ごろに行ったという事例報告でよろしいのでしょうか。

小堀生涯学習係長 そうですね。大体4月、5月に会議があり、その4月、5月の会議は通常通り行い、6月か7月ぐらいになっていると思います。多少違う年もあるかと思いますが。

原田副議長 去年とおととしはたしか9月に行ったような記憶がね。

小堀生涯学習係長 本年度の狭山は5月です。

原田副議長 あ、そうでしたっけ。

小堀生涯学習係長 その前の小平市のほうは、最初7月で予定していたんですけども、調整している中で9月になりました。

原田副議長 なるほど、わかりました。そうすると、例えば、3月までに仮に江戸川と北区の学校に行きますよと計画して、その後の変更で日野になりましたというのは、それぐらいは大丈夫？

小堀生涯学習係長 大丈夫です。

原田副議長 大丈夫ですね。

小堀生涯学習係長 はい。ただしあまり間際ですと最終的な行程表を出す都合があるので。近くから遠くへと変更して有料駐車場代等がかかってしまうと、いろいろ難しくなっていくんですけども、ある程度可能性のある遠目のところを設定しておくということでも。

原田副議長 そうすると、じゃあ、テーマが地域学校協働活動ということではないのかどうかですね。

小山田議長 その視察に行くっていうことでよいかっていうことですね。

原田副議長 柴田先生、ご専門だと思うんですが、地域学校協働活動を推進する上で、我々社会教育委員と学校との関係で、何をポイントに我々は見て物を言ったらいいのかっていうことをちょっと教えてください。

柴田委員 先ほど出ましたコミュニティスクールってというのは、学校運営協議会という組織を設置した学校をコミュニティスクールとか、日本語でいうと地域運営学校というふうにいるんですけども、その管轄は教育委員会の中でも学校教育課のほうが主に担っていますので、生涯学習のほうにある社会教育委員の会議としましては、そこに直接アプローチするよりは、放課後子ども教室とか、地域と学校が連携した地域学校協働本部のような活動を視察して、その小金井市でのあり方を検討していくっていう、小金井スタイルをどう考えていくかということにつながると思うんですが、そこにアプローチするのが一番いいと思います。

で、進んだ事例で、きょうお配りいただいた「とうきょうの地域

教育」の冊子の中には、ただ単に学校と地域が連携するだけじゃなくて、そこに企業が入って、企業の社会貢献活動というところとも連携した活動が展開されている事例がたくさんありますので、そういう事例を見るのもいいかなとも思います。

原田副議長 この資料ですか。

小山田議長 ちょうど、きょう、お配りいただいている。

柴田委員 はい。3ページから5ページのあたりにいろんな事例が。このほかにたくさんあるんだと思いますけれども。

小山田議長 そうですね。ちょっと私もここにかかわっていたりするんですけども、ほんとうにいろんなプログラムがありまして。で、学校で出前事業的なものを行ったり、企業を呼んで事業を行ったり、企業じゃなくても市民行事とか、そういったプログラムを取り入れて実際やっているっていう事例もありますね。あとは、地域学校協働活動という中にも、先ほどのもう1つの資料の2つ目、江戸川区の地域未来塾というのが書かれているんですけども、新たな取り組みとして、放課後の補習授業というので、これは地域の方たちがスタッフとして関わったりとか、そういったような活動もあります。小平はやっていて、小金井はやっていないんですけど。あと、町田とかもちょっとやっていたりして、そこを視察したりしたこともあるんですけど。

そういった取り組みも実はあるんですけども、やはり小金井にはないということで。地域協働にしてもいろんなパターンがあります。ちょうどいろいろバラエティーに富んで入れていただいていますけれども、土曜日の教育支援というのもありますし、あとは、今言った学校支援の地域未来塾というのもありますし、子ども放課後教室その一つです。まあ、いろいろございますので、地域もどこがよいかってなるんですけど。

原田副議長 そうすると、地域によって事情が違うから、それぞれのやり方があるわけですね。小金井はまだそのやり方が見えてない。やってないことはないと思うけど。はっきりしてないってことでしょう。

柴田委員 小金井の放課後子ども教室は、その学校によって運営形態はさまざまなようです。学校側が、副校長先生なんかリーダーシップをとってやってるようなところもあれば、児童館と連携してたり、それから保護者や地域のさまざまな団体の有志の方たちが協力してくださっているところもあったりというようなところもあります。

福井委員 今配っていただいたNo. 129と130の話、プラス126号という資料がまだ資料としてあれば、こっちのほうが逆に活動事例として、今柴田委員が言われたような放課後子ども教室の推進事業で北区また王子もやってるよというような資料もありますから、第126号も目を通していただければと思います。

小山田議長 視察の行き先ということの方向性としては、今も出ております、学校の中での地域学校協働活動、放課後ということで進めていくというような方向で、そのあたりは皆さん、よろしいですか。特にほかに何か、こういうところに行きたいというものがないようであれば、方向性としてはこの方向でいきたいと思えますけれども、それはよろしいですか。

原田副議長 過去のこの研修先一覧で、先ほど説明があったと思うんですが、平成26年度と28年度にコミュニティスクールの実例を視察してるんですね。

小山田議長 そうですね。

原田副議長 で、28年度は私も行きましたけれども、とにかく、先進例、すごく進んじゃってて、いやあ、あんな、無理だよっていう感じになってきちゃったんですね。だから、そういう感じでも、この会議なんかでもコミュニティスクールに一足飛びに何か提言をするといってもなかなか難しいなということで、ある種頓挫してしまったように記憶してるんです。ただ、すごく大事なことだし、小金井市としてもやらなきゃいけない方向なので、きょう議論しているようなコミュニティスクールに一足飛びに行くんじゃなくて、そうじゃない地域連携というのがどういうふうなことができるかということ

でやればいいのかなんて思いました。

首藤委員 研修の過去の事例を見てみると、多くの場所に研修に行かされているけれどなかなか参考にならないことが多い様に思えます。柴田先生が述べられたようにまずは「小金井スタイル」の様なものを明確にしていく為の研修に参加していく姿勢が大事ではないかと思えます。目的が明確でないとなかなか参考にならない。今の方向性の概要やその合意を再度確認してから研修にのぞむという姿勢が必用なのかもしれません。

原田副議長 おっしゃるとおりですね。だから、小委員会の中で議論が出ていたのは、例えばこのメンバーの任期の中である種提言のようなものをまとめて我々の意見とする。それを目標にしてはどうか。去年の生涯学習施設、狭山市の見学は、今回のホームページの改訂にすごく役立ったと思いますね。

首藤委員 そうですね。

原田副議長 そういう流れですね。

小山田議長 実際すばらしくて、自分たちのできるところからやろうということにはなったんですが。そうなんです、実際、これまで見ていているところはやはりコミュニティスクールだったので、かなり小金井とは違って、それを見て終わっているだけという感じだったので、もうちょっと、実際小金井だったらどういったところからできるかっていうことも考えつつ、それこそ、ホームページじゃないですけどできるところからやれるような、参考になるようなところに見に行くというようなことができたらいいかとは思いますが、いかにできかね。

その辺、城さん、いかがですか。方向性として。

城委員 そうですね、私も狭山市に行きまして、あ、こんなに違う市があるんだっていうのを。あまり私も知らなかったの、あ、こういうふうにしてみんながかかわっていけばいいなというのを、やっぱり、行って初めて知るといことはあるので、そういうところがあ

れば行ってもう少し勉強したいなというのもあります。

小山田議長 方向性としては、学校関係っていう地域連携的な話なんですけれども、それはよろしいですか。

城委員 はい、そのままです。

小山田議長 そのままでよろしいということですね。

城委員 で、杉並の人が、今、子どもに食事をとということでやってる方が、ちょっとこの間お会いしまして、大変なのよって。やっぱり企業の寄附があるとすごくやりやすいけれども、企業の寄附がないと大変なのよというのをちらっと聞いて、あ、そうか、小金井市って企業がないからなかなか大変なのかなというのをそのときに思ったんですけれども。そういうふうなものも、いろいろ聞いたり見たりしないと、ただ漠然と新聞を読んでもだけではわからないので、わかるように少しでも勉強させていただける何かこういうものがないかなと思っています。

小山田議長 城さんのお話しされた子ども食堂。そういうのもいいですね。

城委員 いいです。

小山田議長 よろしいですか。

では、方向性としては、学校との地域連携ということでいって、その後、小金井スタイルっていう形で社会教育委員会として何か提言を出すというような形で進めていきたいと思いますが、じゃあ、それでご承認いただけますでしょうか。

(「はい」という声あり)

小山田議長 ありがとうございます。そうしましたら、具体的な場所というのは、さっきも福井委員もおっしゃっていただきましたけれども、126と、あとちょうど129、130ですね、ちょっと見ていただいて、で、ここを見に行きたいというところがありましたら。こ

ここに掲載されてなくても、何か、いらっしやってあそこの学校がいかとかそういうのがありましたら、それはじゃあ次回の委員会でやらせていただければと思います。

じゃあ、「平成30年度の視察研修について」ということは、議題としてはこれで終わりたいと思います。

議題として、「その他」ということで、何かございますでしょうか。

西田生涯学習部長 すみません、事務局側からなんですけれども、前回、三者合同会議の中で、公民館は「新しい公民館のあり方」というのを発表させていただきました。こちらは、公民館運営審議会のほうで、1年半ぐらいにわたって審議していただいた内容の一部を、公民館がこれまで果たしてきた役割及びこれからの公民館の果たすべき役割というところに着目するとともに、新福社会館というのが今回小金井市で議論になっておりますが、その中で、一体、社会教育、公民館活動というのはどういうふうにするんですかというようなことを教育委員会としてまとめたものを発表させていただきました。

その中で、実は社会教育委員の会議の大きくかかわる部分がありまして、前回あまり時間もなかったのでその辺のところを細かく申し上げられなかったんですが、ポイントが2つあります。1つは、これからの社会教育及び生涯学習というものは、地域課題解決学習につながるものであると。それからもう1つが、社会全体で社会教育及び生涯学習の機会を広げ、拡大していくこと。つまり、システムとしての生涯学習及び社会教育というものを維持発展させていくんだ。ということは、公民館の立場でこれを、あり方として、教育委員会としていわゆる大きな方向性として示しております。

その2つのポイントですが、これは実は社会教育全般のことにもかかわる形になっておりまして、きょう、後で発表があるかもしれないんですが、福井さんが都の社会教育委員連絡協議会というところで、第5ブロック研修会で、日本女子大学の先生のお話がありましたけれども、ちょっとここに重なるようなご報告があります。後でご発表があるのかもしれませんが、いわゆる地域課題解決というような話がやはりここにも登場してくるんですね。

ですので、先ほど来、視察先のご検討の中で出てきたいわゆるコミュニティスクールは、先ほど城さんのお話にもありましたけれど

も、企業とかっていう話が出てきました。もう、行政で何かをお膳立てをして、それに沿った形だけで全ての地域課題を解決していこうという時代ではないのかなと。ですから、いろいろな市民が持っている力、あるいは市にある企業、その他いろいろな、今情報は発達しておりますので、そういったものをどういうふうに活用しながら、行政としてはそれをどのように生かして、あるいはコーディネートして、あるいはファシリテーターとしてどのような役割を果たして社会教育、生涯学習というものを今後進めていくのかという、大きな岐路に立っているかなというような感じが、私、しております。

そういう意味で言えば、今回の視察研修っていう、先ほど首藤委員もおっしゃいましたけれども、小金井らしくどういうふうに求めていくのか。小金井スタイルとおっしゃいましたけれども、そういった、時代なりのいろいろな要請がある中で、どのように着実に方向性を定めて着実に進んでいけばいいのかというのは、これから非常に大きな課題となっていくなと感じております。

したがって、30年度視察研修それから今までお話しいただいた生涯学習支援センター機能、こういったものを発展形として最終的に小金井としてのスタイル、生涯学習・社会教育というのはどうするんだろうというところについて、あわせて、ご提言というわけではないんですけども、やはりこの会議の中でどのような形にして議論するかというのは、市の中でも考えていかなきゃいけないなと思ってますけれども、適宜意見交換しながら何らかの形でやっぱり議論をしていただきたいなと思っております。

本日のところ、何か具体的にというのはないんですけども、今後そういうような考え方も市のほうと教育委員会のほうとございますので、ご協力方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

小山田議長

ありがとうございました。

まさにというところですけども、じゃあ、また事務局とも相談しながら、これからまた議題としていろいろ皆さんと話し合っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

そうしましたら、報告事項ということで、今もお話が出ておりましたが、福井さんのほうで、平成29年度都市社連協第5ブロック

研修会ということでまとめていただいておりますので、その後、首藤さんのほうからも第48回関東甲信越静社会教育研究大会の報告が挙がっております。

では、まず福井さんのほうから、報告書に基づいて簡単にご説明をお願いいたします。

福井委員

お手元の資料の中に福井の報告があります。第5ブロック研修会が、平成29年10月28日、三鷹の元気創造プラザで開催されました。

1つ目は、田中雅文教授による講演会ということで、「市町村における生涯学習の展望」というテーマで聴講しました。それで、生涯学習とはという基本的な考え方、また意義ということ、あと、今後の生涯学習の行政課題ということで、お話をされました。基本的には、人と組織が社会的関係を、つながりを重視して学習の成果を地域に貢献するというのが、全体的な話でまとまっておりますし、あと、先ほど西田部長が言われたように、社会教育は地域づくりというものを重視してやっていかなきゃいけないんじゃないかというお話をされたということが、1つ目の講演会のポイントだと思います。

裏のページに行きまして、その後、元気創造プラザの施設見学をしました。こちらの建物は、昨年の平成29年4月1日にオープンしまして、一番特徴のあることが2つあります。1つは、施設ということの中で、市民目線で作られている建物じゃないかということです。例えば、施設の特徴として1つ目の米印なんですけれども、案内掲示板またはフロアを色別に分けているということで、2階に上がったら、ピンク色のドア、ピンク色の椅子、それで、保健関係の仕事をやっているよとか、4階に行けば、エレベーターの扉及び壁面等を含めまして、生涯学習関係の提供をするフロア自体がオレンジ色に統一しているというようなことで、地下から5階まで、間違ってもエレベーターをおりても、自分が行きたい色だけ覚えておけばそのフロアに行けるということで、非常に市民目線で作られているというのが1つ目の大きな特徴の施設じゃないかと思います。

もう1点は、災害に強いまちづくりの機能が融合されているということで、全て三鷹市の災害活動拠点をここにまとめているということで、非常に小金井市も見習うべきだと思います。例えば、現状

は会議室という名前で、何々会議室という名称で提示されている部屋自体も、もう既に、災害が生じた場合この部屋は何に使う部屋だということまで、掲示で入り口のところの会議室の下に告知されています。例えば、ここは消防署、市長、災害責任者が使う部屋だよとか、そういうところまで明記しているところで、今後、例えば本庁舎が開設されたときでも、そういう防災関係の対応を当然していかなくちゃいけないと思うんですけども、現状の既存では会議室に使っているところも、いざそういう防災の活動をする場合、こういうお部屋で集合するということが事前に確保していて明示されていけば、利用しやすいんじゃないかということです。

そういうところも含めて非常に見習うことが提示されているんじゃないかということで、市民目線あと有効性という面では、施設としては参考になるとの想いで、見学してきました。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。

先に、続けて報告をいただいて、後で、皆さんに追加ことがあれば伺いたいと思います。

第48回関東甲信越静社会教育研究大会静岡大会ということで、あ、福井さんも出していただいて、福井さんと首藤さんのほうから出ておりますので、じゃあ、続けて福井さん、こちらのほう、簡単をお願いします。

福井委員

関東甲信越静社会教育研究大会の報告をします。

こちらの大会は、平成29年11月16日及び17日、沼津市で第48回が開催されました。ここに記載しているように、大会テーマは「社会教育を広げよう 人の輪 地域の輪」ということで、やはり社会教育は地域の力も必要じゃないかという内容が大テーマでした。趣旨としては、住民と地域がつながることで地域の教育力を高め、地域での一体感を強めていくということで、参加者が660名、1都10県から参加しました。

講演会で、久能山東照宮の落合偉洲宮司で、徳川家康公と久能山東照宮ということでお話しになりました。徳川家康と久能山東照宮とのつながりはこうですよという説明の後、徳川家康自体も社会教育に貢献した人であるということで、人づくり、心の豊かさ、文

化継承というように努めた人であるというのが主旨であり、それと、全体的なまとめとしては、報告書の一番下段の3行に書いてますけれども、1都10県参加されましたから、皆さんの地域においても眠っている郷土資料というものがあると思うということを言われました。その資料自体は、たまたま徳川家康の時計を国宝で出しているつながりでお話しされたんですけれども、例えば、そういう、郷土に眠っている資料自体を指定・認定の国宝を目指すということの活動自体が地域の活性化に結びつくと。これ自体も社会教育じゃないかというお話をされたというのが、記念講演の中身でした。

裏のページに行きまして、次はシンポジウムということで、テーマが「未来へつながる地域をめざして」ということで、静岡県内の3人のシンポジストが発表されました。1人目は、静岡市内の方なんですけれども、子どもと地域商店をつなぐ活動をしているというので地域活動。これも社会教育じゃないかということで再認識しました。2人目は、伊豆の国という市がありまして、地域を知ってもらおうということで、お菓子を販売しながら、そのお菓子の中に伊豆地方の風景を取り入れたお菓子づくりをしているということで、地域を知ってもらう活動をしていると。3番目の方は、沼津市の方で、パン屋さんの協力を得て、パンマルシェというようなイベントの活動をしながら人と地域をつないでいるということで、全体的には、地域で活動しているもの自体がもう社会教育であるということを理解したということで、3人のシンポジストの発表を聞いたということです。

次の日には、分科会ということで分かれまして、このグループとしては90名参加しました。事例発表としては、「社会教育委員のあり方」ということで茨城県ひたちなか市の社会教育委員の方が発表されました。その中で、非常に小金井市と違って、ひたちなか市として社会教育委員のメンバーはもう少し努力すべきかなというような思いを強くしました。

4つほど明記してますけれども、1つ目、我々、今、会議をやってますが、茨城県は44市町村あるんですけれども、こういう定例会議を年に1回か2回しかやってない市町村は44市町村のうち31市町村ということで、全体の70%は年に1回ぐらいしか会議をやっていないという報告がありました。

次に、公募委員の選任ということで、我々を含めましてこのメン

バー、10名の委員がおりますけれども3名が公募委員で選出されていますが、茨城県のほうは各企業・団体の代表者が選任されているということで、茨城県内では44市町村のうち2町村のみ公募委員を選任しているにすぎないということ。

3番目に、任期ですね。小金井市は3期までということなんですけれども、先ほどの2番とリンクするんですが、茨城県は4期、5期の人が多いということと、やはり、各企業・団体の代表者が選ばれているということで高齢者が多いということで、今後いろいろ検討していきたいという意見がありました。

それと、最後になるんですけれども、茨城県は従来、社会教育委員の会議は生涯学習課でやってたということなんですけど、2年ほど前から青少年課に所属したということで、生涯学習から切り離して運営しているということです。現状、生涯学習というところも並行してつながっていくんですけれども、その後、特に小中学生と一部高校生に特化して視察研修をやりながら、方針等を含めて提言しているということで、青少年に特化している、これはちょっと特別な活動の社会教育委員の中のテーマということで特化している内容じゃないかということ。

全体的にひたちなか市は、高齢化しているということで、もう少し委員の質を向上していかなきゃいけないんじゃないかということでまとめました。

それと、もう1つ、もう来年度ということになるんですけれども、次回開催予定は長野大会ということで、日付の記載どおり発表されたんですが、もう既に我々の手元に来年度の11月15、16日の長野大会のチラシを長野市が準備されていまして、もう分科会の中身まで公表されているところで、当日の沼津の大会に長野大会で準備されている市の紹介の報告及びキャラクターの、小金井でいう「こきんちゃん」のぬいぐるみですね、そういうのも会場に来られるということでした。

まだ1年以上先の段階から既に次回の長野市の準備されているということも、いい意味で驚きの感を持っているということで、機会がありましたらぜひまた他市の状況を知ることと、当然、分科会の後、参加しましたから、いろいろな人とのつながりということで参考になったということで、また機会がありましたらいろいろな大会等参加したいという強い思いをいたしました。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。

この大会、首藤さんも行かれていらっしゃるので、何か補足とか感想がございましたらお願いします。

首藤委員

福井さんと一緒に参加させていただきまして、今福井さんのほうから概要のご説明も感想も詳しくされましたので、私のほうは個人的な感想、そんなふうにし少しお話をさせていただきます。

全体的には、参加されている社会教育委員自身が社会教育とは何ぞやということに悩まれてる方が非常に多いと感じました。懇親会等でいろいろな社会教育委員の方たちと話したんですが、実態としては、自分たちがやらなきゃいけない使命とは何かというところで悩んでいらっしゃる方が非常に多いんだなというのを感じたというのが、全体の印象でした。

で、いろんな検証の中で、そうだよねって思ったのが、やっぱり、社会教育っていうのは生涯教育、実は、若い世代に対する取り組みというのがすごく重要で、最初のステップでどう社会教育を若い世代にくみしていくのか、組み入れていくのかということがすごく重要なんだなというふうなことを感じました。その事例として、幾つかの事例があったわけですが、その中で参考になることは、さっき福井さんがおっしゃったとおりでございます。

もう1つ思ったのは、きょうの話にも通じるんですけども、いろんなエリアでいろんな規模で社会教育が実践されていますが、早く自分たちに合ったスタイルを見つけることが大切だと感じました。自分たちのエリアに合った形をきちんと作り上げるっていうことをしないと、なかなか形にして次の発展につながらない。だから、我々はまずこの辺から始めようっていうところを早く固めることが非常に重要なんじゃないかというふうなことを感じた研修であったかなと思います。

ちょっと漠然としていてなかなか伝わらないかもしれないんですけども、そんなふうなことを感じました。概要は福井さんがおっしゃったんで省略します。

小山田議長

ありがとうございました。

首藤委員 それからもう1つ、ごめんなさい。

小山田議長 はい、大丈夫ですよ。

首藤委員 シンポジウムの中でいろんな団体が活動の悩みを報告されました。もちろん資金面の苦労も多かったのですが、一番苦勞されているのはある程度の組織規模に成った以降、次のステップへの変化に悩むということです。相談できるコーディネイターの必要性やそういう組織の必要性を感じました。そういうところに、ひょっとしたら、我々の活動のヒントというか、持っていく方向性というのがあるのかもしれないなというふうなことも感じました。
 ちょっと補足しました。

小山田議長 ありがとうございました。

 では、もう1つということで、平成29年度12月に行われた東京都市町村社会教育委員連絡協議会ということで、これは福井さんが書いてくださっているので、とりあえず福井さんに簡単に。あと、皆さんに聞いていきたいと思います。

福井委員 おっしゃるように、協議会の交流大会・研修会が12月2日、立川市でありまして、参加してきました。

 冒頭、朝岡幸彦、立川市の都市社連協の会長の方が挨拶されまして、今後の地域社会教育は学校教育や福祉との連携にて展開していくべきだというお話をされました。その後、交流大会に関しましては、先ほど第5ブロックで我々のほうの小金井市は三鷹の元気創造プラザへ行ったんですけれども、都市社連は5つのブロックに分かれていまして、各ブロックの幹事の方が、11月、12月ごろ活動された報告をされました。

 ちょっと驚いたことに、次のページの一番上のところに入ってますけれども、第3ブロックの日野市の中で、小金井市の貫井北分館長の村山さんっていう方が講演をされたということで、機会があれば我々も貫井北分館長の村山さんという方の講演を聞いてみたいなという思いをしました。

 一通り各ブロックの研修会をされたというのを聞いたというの

と、最後になりまして、研修会ということで、落語を勉強されて、現状の肩書きは演芸家の稲田和浩さんの講演を聞きました。この方は男性なんですけれども、和服で登場されて、拍手喝采を浴びたという方なんですけれども、テーマが「江戸時代の生涯学習」ということで、江戸時代の庶民がどのように学びを会得したかというのが中身でした。江戸庶民は元禄時代において、娯楽、旅、食生活などの文化が開花した時期であり、このころから江戸庶民が学びを会得していったんじゃないかというのと、一般的には江戸時代の庶民は、落語及び講談などを通して常識的なものとか生き方を身につけた。また、寺子屋教育も識字率100%につながるというようなことで、寺子屋等の勉強も非常に寄与したんじゃないか。

江戸庶民の学びというのは自然に耳から落語、講談などを聞きながら常識的な生き方を身につけたということで、これも社会教育の学びの1つのルーツじゃないかというお話をされたということ、講演会で聞いたということです。

以上です。

小山田議長

ありがとうございます。

今、福井さんと首藤さんのほうから研修会のご報告があったんですが、関東甲信越静は2人だけなんですけれども、ほかの2つは皆さん行かれていらっしゃったので、何かご質問、補足とかご感想とかありましたらお伺いできたらなと思っております。

じゃあ、原田委員。

原田副議長

私も立川の会合に出ました。福井さんがおっしゃったように、貫井北の村山さんがそういう人だって初めて知って、びっくりしたんですね。うちへ帰って、「村山孝一」って検索すると、だーっと出てきますね。で、プラネタリウムの解説をする。登山家で、星空の写真を撮る。あの人をいつも見てるけど、そういうふうに全然見えないです。びっくりしました。

それで、貫井北の活動って、館長みずからがいろんな講座なんかに出席して、すごくユニークなのをやってるんですね。そういう意味では、彼のそういう多彩な経験が講座の中身にも反映してるのになって感じがしまして、興味の部分がいろいろ出た、地域のそういうパワーを生かしてということが大事だなということとこの

人はつなぐんだなという感想を持ちました。

それから、首藤さんに質問ですけれども、若い世代への取り組みが大事だというふうに、何か具体的なアイデアって出ましたか。

首藤委員

アイデアというか、事例の中で、茨城のひたちなか市の事例の中で、ページ数を打ってなくて申しわけない、一番最後の、「社会教育の起点は若い世代からと、まず決めた」と。決めて、その割り切りが社会教育自身のモチベーションにつながって行って、次のステップ、次のステップというふうな中に入って行く、つなげたい。ということが、それが正しいかどうかというよりも、そこに決めて、起点を置いて活動し始めたことが社会教育委員会自身の発展にもつながっていったというような話が、非常に印象的だったかなと。

原田副議長

なるほどね。それでふっと思い出したんですが、私ら団塊の世代、我々の世代でいうと、つまり、会社が全部やってくれるみたいな、ある種。大きい会社でも小さい会社でも、とにかく定年まで会社において、会社の中に社会があって、いろんなことは全部会社で学ぶみたいな。そういう意味で、今の世代はどうかなという、全然会社に捉われていませんね。うちの子どもたちもそうです。会社員、1人もいなくて、自由にやって。で、結構、地域の連中とつながってるんですね。そういう意味では、その若い世代にもう決めて、そこで社会教育をやるんだってということから、何かやっぱり新しいことが出てくる。それから、地域の課題を解決っていう話が出ましたけれども、解決する知恵が若い人から出てくるというような気がしましたね。

小山田議長

ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

福井委員

今、原田委員の、若い人はどうですかという話だったんですけれども、静岡大会で言った3人のシンポジストに関しては、社会教育をやるっていうんじゃなくて、地域で活動するというのが結果的に社会教育につながっているということで、あくまでも地域活性化とかまちづくりとか地域コミュニティをやるというので活動事例、及び、我々も、社会教育ありきっていう肩書は一切なくして、地域で

いかに貢献するとか活動するとかってということで、30代の女性の3人のシンポジストが報告されたんですけども、それが社会教育に後で結びついているということです。だから、社会教育が、若い人が、冠があって参加するということで、地域活動から、先ほど西田部長が言ったように、人と地域が結びついて社会教育につながっていくということであるということです。今の若い人が社会教育に飛び込むというのとはちょっとかけ離れて、スタートの起点が結果的に社会教育活動に結びついているということで理解しております。

柴田委員

首藤委員と福井委員がおっしゃったように、例えば子どもを対象に社会教育活動をしようという、保護者の世代、子育て世代の20代、30代とか40代の人たちもおのずと入ってきますし、それから、子育てを終えた世代の方も社会教育活動として入っていくということで、いろんな世代の方が子どものために動くということ自体が社会教育活動になるという意味で、この茨城の決定というものはすごくおもしろいなと思いました。

あと、若者の社会教育というところですけども、最近、働きながら会社以外の人とつながって、いろんな価値を交換したりとか、いろんな趣味的な活動をしたいという若者のニーズが実はあって、NPOなんかが主催しているカフェのような、若者の市民大学が渋谷を拠点にしている大きいものもありますし、あと、立川のほう、西東京のグループもありますし、長坂先生がされている小金井雑学大学のようなものの若者版というのが、今、草の根的に活発に実はあるというのも注目すべきことかなと思います。

そこで活動している若者たちに話を聞いたことがあるんですけども、何で公民館じゃなくてそういう場に行くのっていうふうに聞きましたら、おしゃれだからって言ってました。(笑) インターネットも見たんですが、すごく工夫されていて。でも、結構会費なんか高いんですよ。それでも若者が参加しているので、やっぱり、ちょっと何か若者を引きつける何かこう魅力のようなものがそこにはあるんじゃないかなと思いました。

小山田議長

ありがとうございました。

城さんはどちらか行かれましたか。

城委員

私も立川へ行かせていただきまして、ああ、江戸時代からこんなに勉強されてたんだというのを、私、それをすごく感じました。、現代の人のほうがもっと勉強してるのかなと思ったんですけども、この講演を伺ったときに、ああ、江戸時代の人もこんなに勉強したんだっていうのを、ほんのちょっとしたことなんですけれども思いました、今の人たちも、恵まれているところはすごく恵まれているんですけども、そうでない人たちがたくさんいるということで、それを何とか、子どもを通して。親が一番動くのは、子どもを通してというのが一番動くので、子どもを対象にいろんなことをやっていくのがいいかなと、私はそれを聞いてても思いました。

小山田議長

きょう、全体として何かご意見ありますか。何かありましたら。はい、ありがとうございました。

私も、最初の立川と参加させていただいて、アフターの話になるんですが、立川の終わった後の懇親会に行かせていただいたんですけども。小金井は私1人だったんですが、ほかの地域は四、五人ぐらい残っていて、結構やっぱり交流されていたので、いろいろご予約はあるかと思うんですが、一人でどうしようと。逆に、ほかの市の人たちに交じって話してきたんですけど、ちょっと寂しい感じがしましたので、また次回あるときはぜひどなたか、よろしく願います。(笑)

でも、そういう場でほんとうに、他市の人たちといろいろお話ができる機会がやっぱり。研修だけ出てもそれで終わりなんですけど、他市の社会教育委員会の方たちとの交流というのもまたいろいろできるので、また来年度よろしく願いいたします。

では、続いての報告ということで、その他になりますが、「平成29年度成人の日記念行事の開催報告について」ということで、これは事務局。

内田生涯学習課長 生涯学習課長です。平成29年度成人の日記念行事につきまして、平成30年1月8日の祝日に行いましたので、概要についてご報告させていただきます。

2部制といたしまして、第1部、第2部。第1部で線路の北側、第2部で線路の南側をとり行いました。対象者でございますが、平成9年4月2日から平成10年4月1日生まれの方になります。こ

ちらの人数、平成29年11月2日現在になりますが、1,286人が対象となっております。

内容につきましては、式典に引き続きまして貫井囃子、ビデオメッセージ、抽選会などを行ってございます。出席された人数でございますが、1部のほうは331人、2部で369人です。また、市内からが642人、市外からは58人、合計で700人参加していただいております。出席率は54.4%です。なお、平成28年度は対象者数が1,207人のところ、参加者数702人でしたので、参加率58.2%と、ほぼ横ばいとなっております。

以上です。

小山田議長

ありがとうございました。

では、続きまして、「図書館の開館について」ということで、所管長からお願いします。

菊池図書館長

図書館長です。昨年9月から空調設備改修工事のために長期休暇をしていました図書館本館ですが、工事が予定どおり完了しましたので、今年1月6日から開館いたしました。

初日1月3日の本館の貸出し冊数は、昨年度に比べまして若干増えているところでございますが、4カ月間休館したこともございましたので、なかなかすぐには通常どおりの利用者数は、まだ戻ってきていないかなというところでございます。

今回の改修工事によりまして本館の空調設備は、フロア内の部屋ごとに稼働できるようになりました。また、温度設計等も可能になりましたので、省エネになりましたし、冬場・夏場も皆様に快適にご利用いただける環境に変わりました。築40年経過している施設でございますけれども、今後も計画的に施設設備の環境整備を行って、乳幼児の方から高齢者の方までが安心・安全に利用できる公共施設を維持できるように努めてまいりたいと思っております。

なお、本館休館中に隣の別館に開設しておりました臨時窓口は、平成29年12月28日をもちまして閉鎖いたしました。

ご報告は以上になります。

小山田議長

ありがとうございました。

西田生涯学習部長 すみません、議長、報告の③というのをちょっと失念しておりましたので、ここで追加をお願いしたいと思います。

③につきましては、平成29年第4回定例会の報告ということになりまして、議会報告を簡単にさせていただきます。

平成29年第4回定例会におきましては、平成29年12月1日から同12月22日まで開催してございます。主に一般質問、それから私どもにかかわるところとしましては厚生文教委員会、予算特別委員会、それから特別委員会として庁舎及び福祉会館建設等調査特別委員会、及び行財政改革調査特別委員会というものが我々に絡んでおります。当然本会議も絡んでいきますけれども、以上の報告を簡単にさせていただきます。

まず、一般質問ですが、生涯学習部関係は7名から11件の質問がございました。生涯学習課に絡んだ質問をされた議員は3名、図書館に絡んだ質問をされた方が3名、公民館に関連した質問をされた方が5名ということでした。詳しくは、市のホームページ等で議事録が公開されますので、そちらのほうをご参照いただければと思います。

それから、厚生文教委員会でございますけれども、生涯学習部関係では陳情が3件審査されております。2件が小金井市体育協会にかかるもの、もう1件につきましては図書館に関する陳情でございました。この図書館に関する陳情につきましては不採択となりましたけれども、残る2件の陳情については継続審査ということになってございます。

それから、あわせて生涯学習部関係行政報告が1件。先ほども私のほうから発言させていただきましたが、新しい時代の公民館のあり方について、「小金井市公民館の中長期計画策定に当たってについて」ということを報告させていただいております。

それから、庁舎及び福祉会館建設等調査特別委員会でございますが、生涯学習部関係では、新庁舎に対しまして図書館が当初の計画の6施設複合化案に含まれていたことから、また新福祉会館に関して公民館が旧福祉会館に入っていたことから、質疑に関係をしております。今回、生涯学習部に関しての質問では特段なかったということでした。

行財政改革調査特別委員会につきましても特段の関連質疑はなかったということになります。

あと、補正予算が可決されたということでございます。
雑駁ですけれども、以上のとおり報告をさせていただきます。

小山田議長 ありがとうございます。
その他、何かございますでしょうか。

福井委員 図書館長から今も本館の説明があったんですけれども、昨年6月
から12月、4カ月間閉鎖してたときに、一般市民の利用者から図
書館長の耳に入ったのが、クレームまではいかなくても要望とか何
か、その期間中に何かあればお聞きしたいと思います。

菊池図書館長 4カ月という長い期間の休館になりますので、私どもも非常に心
配をしておりました。まずは、閉館する前に市民説明会を2回ほど
開かせていただきまして、本館設備の現状と、改修工事が必要なこ
と、あと臨時窓口を開設しますということを丁寧に説明させていた
だきました。また、休館中も、工事の進捗状況を見極めながら、可
能な限り資料を提供していくというようなことをいたしましたので、
こちらはご意見をいただくことを覚悟していたんですけれども、
ほとんどありませんでした。やはり、長いということがありますの
で、まだ開かないんですかとか、そういうお話がありましたけれど
も、直接的にすごいご意見というものはいただかなかったと思っ
ています。
 以上です。

福井委員 今の図書館長の意見のとおり私も耳にしたんですけれども、やは
り問題がなかったように一般市民個々には聞いています。やはりこ
の期間、ある程度本館利用者が貫井北センター及び東センター、緑
センターの図書館に一般市民の利用者が利用するんじゃないかと
いうことで、どうかなということ、10月、11月ごろ貫井北セ
ンターの図書館の職員に聞いても、本館利用者が押し寄せるとい
うこともほとんどなくて、ただ、こういう本がありますかというよ
うな問い合わせが少し多かったかなという感触程度で、一切利用者
のクレーム等、本館のクレームは一切なかったということで聞いてお
ります。図書館長が 提示された、いつオープンするんですか
という告知をもう少ししっかり、わかりやすく、されたほうがいいか

なという感触でした。

以上です。

小山田議長

ありがとうございました。

では、私のほうから1つありまして、三者合同会議のときに、科学の祭典の参加について、どういうふうにしていったらいいかという話が出たと思うんですが、これにつきまして、これから日程を決めるんですが、三者の正副で話し合いをしろということになりました。その話し合いの後、次回の委員会になるかと思いますが、またお話しできたらと思いますので、とりあえず原田さんと私のほうで話をしてみりますので、ということでご承認いただけたらと思います。

それでは、本日の議題は以上で終了させていただきたいと思えます。

次回の会議につきましては、2月19日の月曜日、午前9時半から、今度はまた第二庁舎の8階になります。

以上でよろしいですか。何がございますか。

そうでしたら、本日の会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。